

“DPP-4 阻害薬は、夢の風邪薬！??”

Use of Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors and Reporting of Infections: A Disproportionality Analysis in the World Health Organization Vigibase

【背景】低血糖が来ない、肥らない夢の糖尿病薬として期待され登場したインクレチン製剤、特に DPP4 阻害薬は、内服でも、しっかりと血糖降下作用を有することで、現在、糖尿病薬市場を圧巻しつつありますが、DPP4 酵素の標的の一つにリンパ球やマクロファージ上の CD26 分子があり、以前から免疫の低下からの感染症増加が危惧されておりました。

【方法】今回は、WHO の薬剤安全情報のデータベース (Vigibase) に登録された、糖尿病治療 (内服薬、インスリン療法) を受けた 106,469 名の総計 305,415 の報告 (内 8083 が DPP4 阻害薬単独使用) をもとに、糖尿病治療 (ビッグアナイド (BG) 薬使用を 1 とする) 感染症リスクが検討されました。

【結果】単独治療では、BG に対し、DPP4i のリスクが 2.3 倍と、インスリン 1.6 倍、チアゾリジン 1.2 倍に比較して、最もリスクが高く、併用のインスリン + 経口薬 (DPP4i 除く) の 1.8 倍と比較しても、明らかに感染リスクが高いことが明らかになりました。感染症の内訳では、DPP4i は、上気道炎が 12.3 倍と断トツに高く、下気道感染症や尿路感染症ではリスクの上昇を認めませんでした。一方インスリン治療は、すべての感染症のリスク上昇 (1.5-1.7 倍) を認めました。

【結論】このように、低血糖も体重増加もきたさない夢の糖尿病薬として期待され、現実に売り上げを伸ばす DPP4i ですが、この薬を飲むと風邪をひきやすくなるというのは、どうも本当のようです。仕事量が増えすぎて、もう明日、風邪でもひいて、仕事行きたくないと感じているあなたには、お奨めの一品かもしれません。無論、そんな理由で処方箋を出すのは保険適応外ですので、ご注意ください。。 (文責 阿比留)